

受賞者紹介(アイリーン・ヒラノ・イノウエ 米日カウンシル プレジデント【米国】)

加藤良三氏 三菱商事株式会社 取締役

皇太子殿下、御列席の皆様。

本日ここで、アイリーン・ヒラノ・イノウエさんの受賞に際して紹介の役割を仰せつかった加藤でございます。

日系アメリカ人という言葉をご子供の頃から聞いてきました。

特に19世紀中盤以降、日本人は日本人の、日系人は日系人の、苦痛、苦難を含む歴史を辿って参りました。戦後にあつて奇蹟といわれた日本の経済復興は日系アメリカ人の方々助力があつて初めて花開いたものです。(具体的社名:トヨタ、ソニー、ホンダ、キャノン等々)

私は1960年代半ばから2008年半ばまで43年間、前の職場で主に日米関係に携わつて参りました。一貫して得ている印象は、超大国アメリカ社会の中における日系人の位置付けと国際社会の中における日本国の位置付けとが、よく似ているということです。

米国における日系人の人口数は一貫して100万人前後で、今では中国、韓国、ヴィエトナム、フィリピン系に夙に(そしてはるかに)追い抜かれています。にもかかわらず、日系人に対するアメリカ国内の評価は依然極めて高い。概して、日系人の徳質(virtue)は高く、勤勉、正確、正直、公正ひいては信頼性どれをとつても一級とされています。

又、日系の方々とは社会との同化、融和(assimilation)の速度も程度も速く高い。

人口の少ない割に日系人が各地域において、社会的に高い地位を得ているのは、以上すべてから来る当然の帰結です。日本も又、特に戦後は、国際社会において同様の評価を受けてきましたし、同様であり続けるべきものと思います。

そうした日系米国人の代表格として永く、際立った業績を残して来た一人がアイリーン・ヒラノ・イノウエさんです。

既に皆様は彼女の功績についての詳細な情報をお持ちだと思いますので重複を極力避けませんが、ロスアンジェルス全米日系人博物館の初代館長として、又、現在USJC(米日カウンシル)のプレジデントとして、単に短期・直接的な貢献だけでなく、中、長期、間接的、象徴的な意味で、日米関係全体の維持、発展・深化につくされて来たその貢献の大きさには、赫々たるものがあると思います。

昨年の大震災に当たつて彼女が発揮した日本支援そして日本復興に向けた協力のイニシアティブには、誰しもが深い感銘を受けるであらう。

さらに、皆様のお手元の資料に十分に含まれているか否か定かにしませんが、アイリーンのもう一つの重要な貢献について申し上げます。これは日米関係にととまらず、アジア、太平洋、大洋州、中近東等を含む世界全般の安定と繁栄に及ぶものです。

アイリーンの夫君であられるダニエル・イノウエ上院議員は御承知のとおり、アメリカ合衆国議会上院の最高位に位置するPresident Pro Tempore、プレジデント・プロ・テンポレ(「上院議長代行」)です。上院議長は米国憲法の規定上、アメリカ合衆国副大統領がつとめますので、イノウエ議員は事実上上院第一位であり、大統領に万が一のことがあった場合には、副大統領、下院議長につづき大統領の地位を継承します。加えて、あの「泣く子も黙る」上院歳出委員会委員長(Chairman, Appropriation Committee)でもあります。連邦議会上院は、もともとアメリカの内政だけでなく外交についても大きな影響力を発揮しますが、その上院議長代行兼歳出委員会委員長ともなれば、アメリカ外交の方向性を左右する力を持っておられます。

信頼すべき筋から得た情報によりますと、アイリーンはこのイノウエ上院議員に、彼女がご自分の仕事で不在中でも、夫君が困らないよう、各種の家事の仕方、特に全自動洗濯機の使い方と、親子丼、カツ丼など、各種レトルト食品を多用した電子レンジの使い方を、成功裡に伝授した由です。これにより、たとえアイリーンが家を不在にしているとしても、アメリカは、さらに日本を含む世界は、イノウエ議員がその賢明な影響力を発揮されることを保証されました。一方アイリーンも後顧の憂いなく、日米間の信頼のさらなる向上のために貢献することができる。この御夫妻の存在とチームワークは日本にとってのかけがえのない幸運、財産です。

いずれに致しましても、アイリーンのリーダーシップの下、単に表面的なものではなく、日米間の深味ある相互理解と認識の共有(perception sharing)が今後更に前進することを期待し、確信して、私の挨拶を終わらせていただきます。